

123 No. 3: 中国からの訪日旅行者急増—本県の知名度向上課題— (平成 30 年 5 月 27 日)

2017年の訪日外国人旅行者数は2,869万1千人で、前年比19.3%の伸びだった。中国の訪日旅行者数は前年比15.4%増の735万5,818人と過去最高を記録し、初めて年間700万人を超えた。

昨年5月の入国査証（ビザ）発給要件の緩和に伴う個人旅行需要の高まりや、クルーズ船寄港数の増加などを背景に、全ての月で同月過去最高を記録した。特にハイシーズンである8月は80万人を突破し、単月として過去最高を記録した。

9月頃には「上海総領事館の観光査証に対する審査体制が変更され、より厳格になる」との虚偽の情報が流れたほどである。

訪日中国人の地域別構成をみると、上海市が22%、北京市が16%、広東省が10%（中国旅游研究院「2016上半年中国出境旅游者报告」より）。この3大地域で訪日中国人の約半数を占め、いずれの地域も団体旅行中心から個人旅行への変化が著しい。

初回訪日時は旅行会社の団体ツアーに参加するにしても、マルチビザを取得することで、2回目以降、旅行会社を使わず自分で手配する。

サービス業プラネット（東京都）のアンケート結果によると、訪日旅行の計画を立ててから1か月以内に出発する中国人旅行者が急増している。以前のように3か月以上前からじっくりと計画する人が減っているのは、中国人旅行者にとって訪日旅行が身近になったことの表れだろう。

こうした中、5月24日～27日にかけて、上海市中心部で「上海世界旅遊博覧会」が開催された。50以上の国・地域から750を超える団体が出展し、6万人以上の来場者が集結する国際的な旅行展示会である。

本県のブース出展はなかったが、茨城県及び群馬県と連携して両県のブースでパンフレットを配付し、本県や北関東の魅力をPRした。

連日、多くの来場者で賑わい、訪日旅行への関心の高さを実感したが、「栃木県はどこにあるの？」という声も多く、知名度向上が大きな課題だと実感した。

来年は、多くの来場者から「栃木県に行ったことがあるよ」と言ってもらえるよう、積極的な観光PR活動に努めたい。

なお、17年の本県観光客入れ込み数・宿泊数推定調査結果によると、外国人の宿泊数は前年比5.5%増の221,627人であった。国別では、トップの台湾が4万4,018人。2位の中国は2万2,688人。台湾、中国の人口を考えると、中国人旅行者の伸び代の大きいことが分かる。



【上海世界旅遊博覧会の様子】

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。